

昭和61年度
(1986)
第26回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

男子団体戦では、札幌藻岩が10年連続優勝を成し遂げた。力強い安定した力を持つNo.1の長谷川を軸に、他を全く寄せつけない強さであった。公立高校という限られた条件の中で勝ち続けた10年、その間のご苦労とご努力が如何ばかりであったかはご本人をおいて知るよしもないが、優勝決定の後に胴上げをされていた緒方監督の喜びはひとしおだったに違いない。他の学校をリードして競技力を引き上げる意味からも、11連覇、12連覇を目指しての更なる健闘に期待したいものである。

女子団体戦も、札幌清田が圧倒的な強さを見せつけ、3年連続6度目の栄冠に輝いた。個人戦では、長谷川（札幌藻岩）、坂本（札幌清田）の三冠は、3年生の意地もあってか、見応えのある内容であった。また、伊佐治（東海大四）、灰野（札幌清田）、下田（札幌静修）の2年生トリオの活躍も、今後大いに期待できるところである。

【 全国大会 】

男子団体戦、札幌藻岩は、2回戦、原町（福島）に順当勝ち、ベスト8をかけて相模工大付（神奈川）と戦ったが、惜敗してベスト16止まりであった。

女子団体戦、札幌清田も、2回戦、鼎が浦に3-0で勝ち、3回戦、第5シードの八千代松陰（千葉）と大接戦を演じた。特に、No.1坂本の5-3アップからの6-7（タイブレーク6-8）の敗戦は残念であった。ダブルスも6-7（タイブレーク9-11）で、ベスト8を目前にして力尽きてしまったが、惜しい試合であった。

個人戦では、男子ダブルス、小林・小原組（札幌藻岩）が2回戦進出。シングルの伊佐治（東海大四）、小林（札幌藻岩）も2回戦負けで、期待していた活躍ができず、少々物足りなさを感じた。

女子個人戦は、シングルスで坂本（札幌清田）がベスト32まで進出。今一步のところでベスト16入りを果たせなかった。ダブルスでは、坂本・灰野組（札幌清田）が昨年同様ベスト16入りしたが、今年もまた兵庫の厚い壁を破ることはできなかった。2年生の下田（札幌静修）・灰野（札幌清田）のシングルスも2回戦まで進出した。

今後は、団体戦はベスト8、個人戦はベスト16を目標に、各校とも努力を期待したいところである。

(道高体連テニス専門部)

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

「やった！10連勝」この一言を言いたいために、「負けたくない」「先輩方が築いたV9の歴史を無駄にしたくない」という一心で、毎日毎日、言葉では言い表せないプレッシャーと戦いながら、どれほど厳しい練習を続けてきたことでしょう。

今、改めて振り返ると、あの頃の、どこにも逃げ場がなかった自分を思い出します。追い詰められていたからこそ、「やらなければ」「絶対にやってやる」という気持ちでいられたのです。これは、自分の周りにはいる部員もみんな同じ気持ちであったことでしょう。

そして、今、一番心に残っているのは、最後の1ポイントが決まった瞬間に、喜びの渦の中で初めて見た先生の真っ赤に潤んだ目でした。この勝利を誰よりも喜んでくださったのは、先生だったと思います。

単に10連勝と言っても、我が藻岩高校は公立高校、さらに進学校でもあり、選手も思うようには集まらず、その上、勉強を両立させなければなりません。この条件の中で、それも、10年もかけて成し遂げた記録だからこそ、喜びも大きく、価値のあるものだと思います。

これは、いつもボールを拾い、試合では精一杯応援してくれた後輩たちの功績でもあります。そして何よりも、熱心に指導してくださった先生に心から感謝しています。今後の後輩たちのますますの活躍を見守っていきたいと思います。

(札幌藻岩高校 主将 小林 茂)

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

私は高校生活最後のインターハイ出場を目指して闘い、全道予選で単・複・団体とも優勝。3連覇を成し遂げ、全国大会出場を手に入れました。3連覇という意識はまったくなく、とにかくシングルスで優勝することだけに集中していたのです。

地区大会のシングルスの決勝で、私は負けました。悔しくて悔しくて、2日間は人目を避けて泣いていました。しかし、その時、気づいたのです。「どうして負けてしまったのだろう？しっかり反省しなければ次も同じことを繰り返してしまう」私は負けという事実にはこだわって、少しも前を見ようとしていなかったのです。何をしなければならぬのかを考えると、次の日からの練習が変わりました。1球1球に集中してボールを追いかけ、先生の言葉も聞き逃すまいと懸命でした。

そして全道大会。たくさんの人の中に、それまで試合など見に来たこともない両親がい

ることに気づき、背筋にピリッとしたものが通りました。そして、いつものように挑戦者であるという心を忘れずに・・・・・・・・。

試合が終わり、「勝った!」と思った瞬間、持っていたラケットを握る拳に力が入りました。喜びといっしょに、全国大会に向けて頑張るぞという新しい決意が自然と湧き起こってきたのです。

(札幌清田高校 主将 坂本 由美子)

全国高校総体 (第76回全国高等学校庭球選手権大会) 岡山

8月1日～8日 水島緑地福田公園テニスコート
岡山県テニスコート

男子 個人戦シングルス 優勝 辻野 隆三 (堀越)